

萩の友

題字／萩市文化協会 齊藤 武男

第19号

平成29年(2017)9月発行

萩市文化協会
会長／有富 美子
編集
会報編集委員会
委員長／大場 洋



▲萩三音会による「長唄の三味線演奏」

▲萩三音会 上田恵子会長

種まき運動

会長 有富 美子

最近珍しく楽しみにしているテレビ番組がある。芸能人たちが「才能あり」「凡人」などの査定を競って、俳句や生け花、スケッチ等々に挑戦する内容である。特に注目しているのは俳句で、出演者達が、それぞれ感じたままを表現した作品を披露する。NHKの俳句の番組でもおなじみの俳人、夏井いつき氏が、おおむね厳しい口調で軽快に添削・評価していく。彼女曰く、この番組出演は、「俳句の種まき運動の一環」だそう。俳句を、よく分かっていない私ですら、この句はいいね！とか、素直な気持ちで言葉の持つ広がりや魅力を肌で感じたり、時には彼女の毒舌に思わず吹き出したり、老夫婦の会話も広げてくれる。この番組によって、種まき運動は大いに成功しているといえよう。特に、若い人に人気のアイドルや人気俳優が非凡さを見せると益々注目度が高まり、俳句に対する敷居やハードルが一気に取れていくのを感じる。多分、この番組に至るまでには、かなり地道な活動があったと思うが。

人口が激減する中で、萩市内の文化団体は、次世代の人材づくりに苦勞されている。規模は違っても、この種まき運動をしないと文化は途切れてしまう恐れがある。若い人たちの回りには煩雑な情報がひしめいている。

いつ・どこで、どのようにすれば、文化を肌で感じる文化体験ができるのか。最近頭を悩ませている。時にはマスコミの力を借りて、時には行政の力を借りて、萩市の文化の輪を広げたいと切望している。

平成29年度 加盟団体主要行事一覧表 (平成29年10月～平成30年3月)

月	日	時 間	行 事 名	場 所	団 体 名
10	1	10:00～15:00	名残の茶会	松陰神社	表千家萩千秋会
	14	10:00～17:00	萩・明治維新150年記念 華展	有備館	池坊萩支部
	15	10:00～16:00			
	15	13:00～15:00	第3回くによの会(長唄三味線おさらい会)	江向 渡辺菫蔵旧宅	萩三音会
11	15	13:30～15:30	「萩・阿武女声コーラスの集い」定期演奏会	萩市民館大ホール	コーラスTomorrow
	3	10:00～11:00	恵比須神社祭礼	越ヶ浜4区 恵比須神社	越ヶ浜郷土芸能保存会
	3	12:30～16:30	第26回萩市民音楽祭	萩市民館大ホール	萩音楽協会
	5	9:30～15:00	萩市合同吟剣詩舞道大会	萩市民館大ホール	萩市吟剣詩舞連盟
12	18	17:00～22:00	天神様秋季例祭神楽舞奉納	山田天神様	山田神楽舞保存会
	2～25	10:00～16:00	ステンドグラスのクリスマス作品展	喫茶 なないろ	ステンドグラス ゆとりろ
	10	10:00～16:30	大津あきら顕彰「歌謡フェスティバル」	ルネッサながと	NPO北浦音楽芸能文化協会
	24	5:00～13:00	恵比須講	越ヶ浜漁協 他	越ヶ浜郷土芸能保存会
1	21	9:00～15:00	近隣川柳会交流新年句会	萩市民館講義室	萩川柳会
	31	19:00～20:00	越ヶ浜郷土芸能保存会総会	越ヶ浜介護予防センター	越ヶ浜郷土芸能保存会
3	11	9:00～16:00	観世流謡曲、仕舞会	旭マルチメディアセンター	明木緑声会

※各団体から報告のあったもののみを掲載。

原稿募集!

会報「萩の友」は、会員の交流の場です。皆さんからの情報を募集しています。とどしとお寄せください。

編集後記

ますと、いろいろな文化行事が目白押しで、わくわくして来ます。今年は「明治維新百五十周年記念」の年で、早くもプレとしての行事も始まります。イベント等の観覧も大切ですが、自ら創作したり、出演したりすることも大切ではないでしょうか。観る、聴く、創る、演ずる、いづれにせよ参加することは文化の向上、発展に資することです。ります。文化の秋を満喫しましょう。

(委員長 大場 洋)

萩市民館開館50周年記念 南こうせつwithウー・ファン ～心のうたコンサート～



このコンサートは、一般財団法人自治総合センターのご支援をいただき、宝くじの社会貢献広報事業として、地域の人々に上質な音楽を提供し、明るいまちづくりなどコミュニティ活動の充実・強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与しようとするものです。

※詳細は、後日お知らせいたします。



南こうせつとウー・ファン

■日 時：2月24日(土) 18:00～20:30
■場 所：萩市民館 大ホール

祝・全国大会出場! 第32回国民文化祭・なら2017 「小倉百人一首競技かるた全国大会」

萩高等学校2年生の松原愛奈美さんが、小倉百人一首競技かるた全国大会に山口県代表として出場します。全国大会は、奈良県橿原市で都道府県対抗の団体戦で行われます。



萩高2年
松原 愛奈美さん

平成二十九年 萩市文化協会通常総会

六月四日（日）、萩グランドホテル天空で六十四名の会員が出席し、平成二十九年年度の総会が開催されました。

冒頭、有富会長から「来年は明治維新百五十周年記念を迎え、各団体では様々な記念イベントが開催されることと思う。こういった関連行事において文化協会は連携を深め合い、萩市の文化を盛り上げていきたい」と挨拶があり、続いて藤道健二市長より「文化協会には各分野において、萩市の文化発展に多大な貢献をいただいている」と祝辞をいただきました。議事では、有富会長を議長に指名、役員変更や決算、予算、活動報告、活動計画などの議案を審議し、承認しました。議案の主な内容については次のとおりです。



▲挨拶される有富会長

●役員変更

本年は役員改選の年ではありませんが、これまで、文化協会副会長であった長岡進氏の萩美術協会会長退任に伴い、新会長となった藤崎恒頼氏を文化協会副会長に変更する選任案が提案され承認されました。

●平成二十八年事業報告

主な共催・後援事業

▽第十回山口県総合芸術文化祭・第六十四回山口県川柳大会、十月一日・サンライフ萩

▽三井住友海上文化財団 ザ・チェンバラス／N響金管奏者たち／コンサート、十月二十三日・萩市民館 入場者約六〇〇人

●平成二十八年決算報告

前年度対比で、収入では会員会費の減少、支出では総会の会場費が増額しており、来年度の繰越額は三八、一一六円となりました。

●平成二十九年事業計画・予算報告

ほぼ前年度同様の事業及び決算を踏まえての事業計画と予算ですが、収入において繰越額が減少したことにより、前年度対比で、約五万円の減額予算となりました。

●各種文化事業に対する支援
十月一日、サンライフ萩で開催された第六十四回山口県川柳大会において、文化協会会長賞の授与を行いました。

▼萩三音会によるアトラクション

議事終了に引き続き行われたアトラクションでは、萩三音会の皆さんによる長唄の三味線演奏が行われ、会場の皆さんを和やかに包んでくれました。

記念講演

「松陰先生と塾生たち」

講師 上田 俊成氏

アトラクションに続き、「松陰先生と塾生たち」と題して、上田俊成氏による記念講演が行われました。

講演の中で「本来人の心は善であるという孟子の性善説に松陰先生は立っておられ、この松陰先生のやさしさというのは、お母様の影響である」。また、産業革命を短期間で成し遂げた江戸時代の「教育力」を挙げられ、とりわけ松下村塾は、倒幕だけでなく、将来の近代工業化を見据えた人材育成を目的としていたと話されました。



▲熱弁される上田俊成氏



伝統芸能訪問シリーズ7 むつみ地区下野田の火祭り

萩市むつみ地区下野田に、毎年初夏に、藁を巻き付けた籠を天頂に取り付けた柱を田圃の中に立てて、下から火のついた藁を投げ上げて籠に火をつけ燃やす、という「野田の火祭り」という伝統的なお祭りがあります。このお祭りについて、むつみ地区野田の柱松保存会の山本正さんにお聞きしました。



▲柱松保存会 山本正さん

◎下野田集落は現在何軒ありますか

七軒ほどですが、人口は十四人です。若い者は集落を出てしまい、残っているのは、六十〜七十歳以上で、年寄りばかりです。それで農業生産法人を立ち上げています。

◎お祭りの起源は

昔、この辺りで牛馬の重い疫病が流行ったことがあり、当時の農耕に重要な役割を果たしていた牛馬が多く死んだそうです。医学も発達していない時代なので、祇園様に、神頼みをしたそうですが、その神のお告

げのとおりにしたら疫病はすっかり止んだのです。

以来、火祭りは、今に伝承されているのです。

◎このお祭りが始まったのは

私は八十四歳になりますが、小学校四、五年生ぐらいの時に、近所の八十歳ぐらいのお爺さんが「このお祭りは、子どもの頃から一度も休んだことが無い」と言っていました。いつ始まったのかということは残念ながら記録も無く全く分かりません。

◎七月十四日というのは何か意味がある日なのか

それよく分からないのです。私たちの集落には守り神の社があつて、その神社のお祭りの日である七月十四日に毎年、ずっと続けているのです。神社の御神体はササノオノミコトで、お祇園様と呼んでいます。戦時中にも続いていたのです。続いていました。私の記憶では一

年だって休んだことはありません。

◎柱は松なのですか

私が子どもの頃、家の軒先にロープで吊るしてある火祭り用の大きな松の柱がありました。でも十二くらい前に、払い下げの鋼製の電柱になりました。高さは七〜八メートルです。

◎籠の大きさはどのくらいですか

直径は一メートル二〇〜三〇センチで高さは二メートルくらいです。籠が完成したら公会堂で宮司さんにお祀りをしてもらい、御神体になる御幣を籠の中に立てます。

◎祭りは誰が仕切っているのですか

現在、集落の最長老は私になってしまいました。それで、私を中心にやってお祭りを行っています。

力があることは、農業生産法人の若い方達に仕事の都合のついた時に手伝っていただいたりしています。

◎今年のお祭りは見学者を含めて何人ぐらい集まりましたか

今年は皆で十四〜十五人でした。



六十歳代〜七十歳代までの年寄りばかりでした。見学者はおられなかったと思います。

◎後世への伝承をどう考えておられますか

それが一番の悩みです。長い年月伝承され、現在に続いている行事というのは、周辺では私の集落ぐらいしか無いと思います。現在、六十〜七十歳代の人にも手をとるようにして教えています。都会に出て行った人にも帰って来て欲しいのですが、農業生産法人の若い方達に仕事の都合のついた時に手伝ってもらえれば、有力な助っ人だと思っています。

◆インタビューを終えて

山本さんの、誇りを持つてお祭りを守つていこうという強い意欲を感じ、深く感銘を受けました。

ユニークな由来と行事に、地域の暮らしに根ざす文化を目の当たりにしましたが、このような伝統文化を、必ず絶やすことなく未来へ継承していただきたいと強く願いました。

しかし、お祭りが一集落のみに伝わるものであるだけに、伝承への後継者不足等の環境は甚だ厳しく、地域を越えて守つていく等の思い切った対策等、行政も含めて支援が必要ではないかと考えました。